

業務改善活動報告書

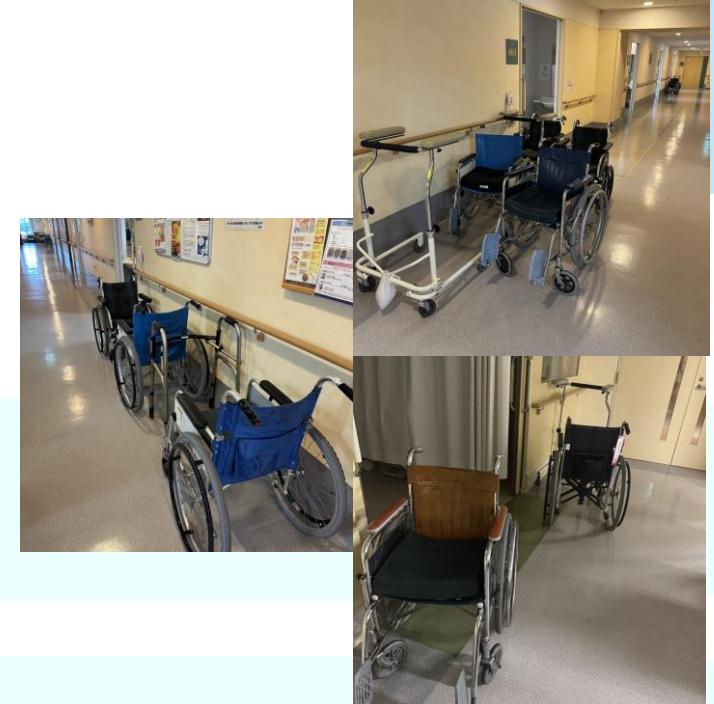
車椅子・歩行器の整理と使用物品の可視化

テーマ：廊下における補助具整備の標準化と安全動線の確立

8階病棟 今井舞衣子・中村亮斗・北島姫香

活動の背景と当初の課題（9月時点）

当初、以下の3つの問題が病棟の安全と業務効率に影響を与えていました。



廊下の安全リスクと動線阻害 ✗

廊下に車椅子や歩行器が常時置かれ、通行や緊急時の搬送に危険がありました。

物品の誤使用・共有ミス ✗

どの患者様がどの補助具を使用するのかが不明確で、誤使用や補助具の共有の管理ミスが起こりやすい状況でした。

職種間の情報共有不足 ✗

看護師、介護職、リハビリスタッフ間での補助具の情報共有がスムーズではありませんでした。



施策 1: 物品配置ルールの策定

廊下から物品を撤去し、動線を確保するための時間帯別・場所別の詳細な収納ルールを策定・徹底しました。（昼間：病室内へ畳んで収納、夜間：4人室は2台までなど）



施策 2: 使用物品の可視化ボード設置

各病室のドア付近にホワイトボードを設置。マグネットで「車椅子・歩行車・杖・見守り」などの安静度や使用物品を可視化し、職種間の情報共有を目指しました。

活動の背景と当初の課題（9～10月時点）

達成された成果（廊下の安全確保）



廊下に車椅子や歩行器が出ることはなくなり、**主要な動線確保は達成されました。**



課題①：病室内の動線と安全性



病室内に車椅子や歩行器、ポータブルトイレ（以降PWC）が複数あると、**室内スペースが狭くなり、患者様やスタッフの動線が悪化し転倒リスクが残存しています。**

課題②：可視化ボードの運用不徹底



安静度変更時（特にリハビリ回診後）にマグネットが更新されないことが多く、**実際の状態と表示が一致しないケースが散見されました。**（二重管理による負担が原因）

再改善策①：病室内物品（車椅子・PWC等）の安全管理

目的：病室内のスペース確保と転倒予防

PWC配置・管理の徹底

夜勤者は、出勤後PWC使用患者を確認し、必要な場合は機材室から搬入する。

朝は日勤者と交代するまでに必ず病室内の邪魔にならない位置へ移動させ、環境整備を整える。

車椅子・歩行器・補助具の管理

- ・夜間の配置：就寝前、車椅子は畳んでベッド足元へ。
- ・不要時の撤去：安静度変更で不要になったら直ちに機材室へ。
- ・使い分け：併用時、使わない補助具は病室内で畳んで収納。

責任者の明確化

各受け持ち看護師が責任をもって、車椅子や歩行器、PWCの調整（搬入・撤去の依頼）を実施する。

再改善策②：情報ツールの修正とルール順守の再周知

目的：情報の一貫化と動線確保ルールの再定着

情報ツールの内容修正と周知

病院統一の安静度表や病室ホワイトボードの記載内容を再度見直し、現状と乖離がないか確認・修正する。

修正点を全スタッフに周知し、情報ツールを業務に活用するよう促す。

視覚的ルールの再周知（廊下の安全確保）

「補助具は室内にしまいましょう！」といったラミネートを廊下などに再度掲示し、動線確保（廊下に出さない）という基本ルールを視覚的に再定着させる。



活動の背景と課題（11～12月時点）

達成された成果（廊下の安全確保）

継続して廊下に車椅子や歩行器、PWCが出ることはなくなり、**主要な動線確保は達成されました。**

課題

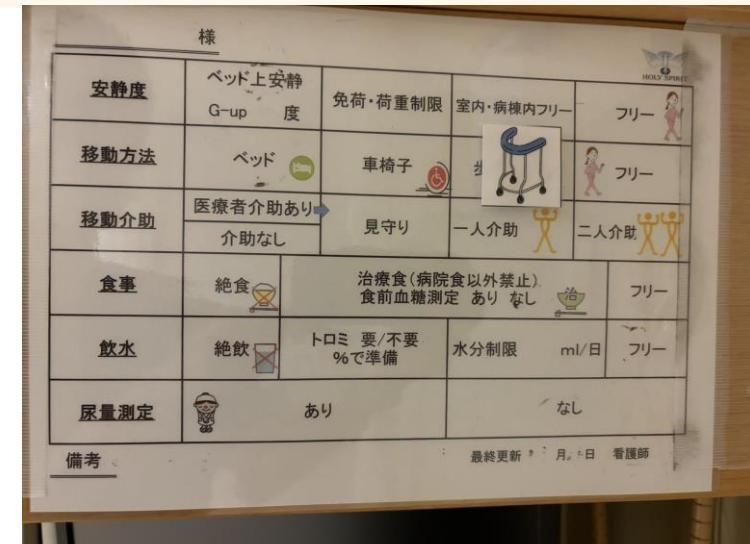
「病院統一の安静度表」と「病室ホワイトボードのマグネット」の**二重管理**がスタッフの負担となり、マグネットの未更新を招いています。マグネット表示は**使用補助具の把握**に不可欠。

再改善策：ホワイトボードの撤去と統合

ホワイトボードの廃止：各病室のホワイトボードを撤去。

統一表への移行：病院統一の安静度表の補助具の欄に、マグネットを貼れるようにレイアウトを修正。

更新ルールの徹底：安静度（および使用補助具）変更時には、統一表のマグネットを必ず更新し、情報の最新性を維持。



今後の運用スケジュールと展望

月	アクション	目標
9～10月	初期ルール 試験運用	廊下からの補助具撤去
11月～12月	初期ルール 運用・評価	新たな課題 (室内動線・マグネット未更新) を抽出
12月	車椅子や歩行器、PWC運用徹底、 統一表へのマグネット統合 (最終版ルール確定)	病室内の動線確保と 情報表示の一元化
1月以降	最終版ルールの継続評価・定着	病棟全体の安全文化の 確立と業務負荷の軽減

展望：ルールの定着により、看護師・介護士・リハビリスタッフ全員が同じ情報に基づき、最も安全な環境でケアを提供できることを目指します。